

継続

研究

題目：「人生100年時代のエイジングデザイン」調査研究

研究代表者：東京大学 久恒 辰博

産総研代表者：人間拡張研究センター 持丸 正明

大きな負担なく健康で幸せに長生きができる人生100年時代に適したエイジングデザインを創出する。心身の衰えである老化は、生活習慣の改善によりある程度は制御可能であることが判ってきた。そこで、東京大学と産総研とで進めている老化制御デザイン研究を拡張させ、生活習慣改善による健康増進支援、センサやロボット技術を活用した遠隔健康支援サービス、および健康寿命を延伸させるエイジングデザイン創出に関するFSと、柏の葉での連携体制の整備を実施する。

東京大学 大学院新領域創成科学研究科

- 生活習慣改善による健康寿命延伸に関する老化生命科学研究、ならびにその調査研究およびアウトリーチ活動
- 健康支援サービスプラットフォームの立ち上げ



人工知能 (AI)による
認知機能検査



まちの健康研究所「あ・し・た」
による協力・場所提供

AIST (産総研・人間拡張研究センター)

- スマートフォンを用いた歩行計測・評価技術の改良、認知機能検査アプリの開発・改良
- 対話型AIロボットによる認知機能検査の実証実験



歩行状態のセンシング

生活習慣改善による
健康寿命の延伸



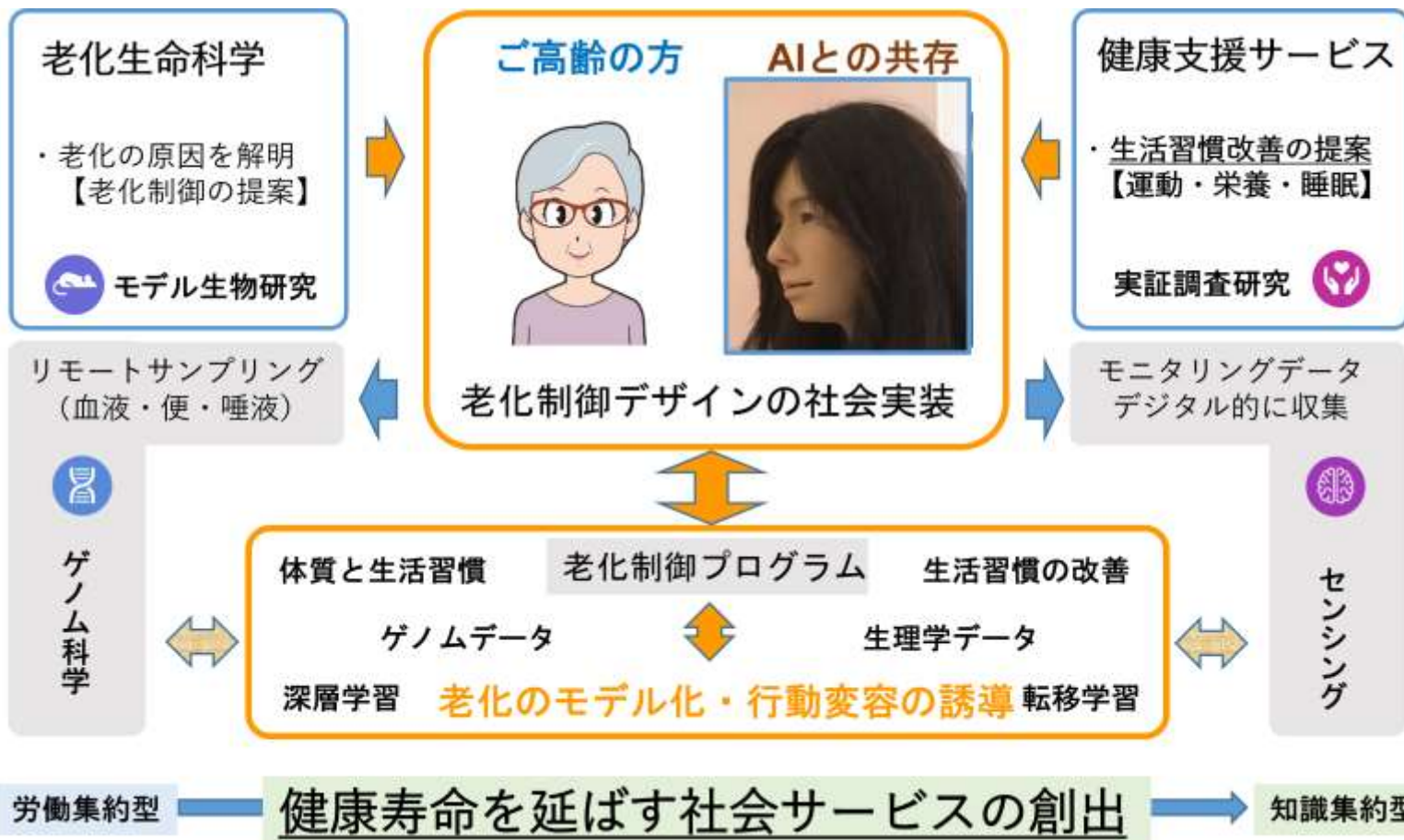
健康支援サービス
プラットフォーム



認知機能検査
アプリ

三井不動産株式会社 まちの健康研究所「あ・し・た」

- 実証研究の場所提供、研究協力者の募集・サポート



【今後の活動予定】 継続的に調査研究を実施

- ・人工知能を用いた高齢者に対するコミュニケーション技術の開発に関するFS研究
- ・フレイルが疑われる高齢者に対して歩行状態をセンシングするFS研究
- ・地域の高齢者に向けたスマートデバイスを活用した生活習慣改善による健康増進研究

【期待される効果と展望】

- ・遠隔で各種検査を実施するシステムの開発によるデジタルヘルスケアシステムの構築
- ・個人に応じて健康余命を延ばすエイジングデザインを社会の中に実装
- ・2040年の健康寿命を、国としての目標である3年延伸に結び付けていく